

論点 I (東京におけるエネルギー利用と確保のあり方)

- 東京において将来に向け**電力利用の増大**が見込まれる中、大規模な発電所から**送電網**により電気を供給する仕組みに代えて、**多様な小規模の電源**から**電気を確保**するという考え方はどの程度まで有効であるか。
- 規模の小さい電源として、太陽光など**再生可能エネルギーの供給が少ない時間帯**に、**E Vを活用**してどの程度**電気の供給を確保**することが可能か。**E Vによる電気の供給の基盤づくり**や**インセンティブの確保**をどう進めていくべきか。
- **電気と熱**とを組み合わせた**エネルギーの利用と確保のあり方**をどのように展開するべきか。特に、**大気熱（ヒートポンプ）**など**常温との温度差の少ない熱**の利用拡大を図るためにどのような取組が有効か。
- 東京の**都市部**を中心に広がる**業務用ビル**の**断熱性能**を高めるためにどのような**工夫**を行うことが効果的であるか。特に**既存**のビルを含めて**断熱性の効果**を高めるためにどのような取組が効果的であるか。

論点Ⅱ（東京における水素の利活用や供給のあり方）

（水素の利用と供給とのマッチング）

- 東京における将来の**有力なエネルギー**として**水素の需要と供給の量**を高めていく場合に、都としては**国と協力**し、どのような**分野**での**利活用等**に力を入れていくことが重要となるのか。
- 水素を**モビリティ分野**で広げる場合に**水素の供給**を担う**事業者**と**モビリティを提供・導入する会社**とが参加して水素ステーションの**配置**や**モビリティの提供・導入の進め方**をどう検討すべきか。

（マッチングの実施主体）

- 水素の**需要と供給**とを**マッチング**するため、**海外**における**事例**も踏まえ、どのような**主体**を活用すべきか。また、**水素に係る利活用の量や値段等のギャップ**にどう対応すべきか。
- **都の域**を超えて**広域的**に**水素の利用や供給**を**マネジメント**するための取組をどう効果的に進めていくべきか。

第3回東京都エネルギー問題アドバイザーボードにおける論点

論点Ⅱ（東京における水素の利活用や供給のあり方）

（水素ステーションの整備）

- 水素の活用を**モビリティの分野**で広げていく場合、水素や燃料電池で動く**商用車向け**に東京のどのような**エリア**にどの**程度の水素ステーション**を設けることが効果的か。また、**都内の様々なエリア**に**スタンド**がある中で、新たな**水素ステーション**をどう作り上げていくべきか。
- これまでの**国の議論**等を踏まえ、**東京と大阪**などを結ぶ**主要のルート**を**取り決めて**、その**路線**上に**一定の間隔**で**大規模なステーション**を**配置**していく取組をどう進めていくべきか。その場合に東京ではルートの**始終点**となる**ステーション**をどのような**エリア**に設けるべきか。

（都としての先導的な役割等）

- 水素の利活用を広げるため、**都バス**などの**公的なモビリティ**での対応のほかに、**民間**への**モビリティの導入**など、どのような取組が効果的か。

（さまざまなルールづくり）

- 東京で**低コストの水素ステーション**を整備する取組に役立てるため、設備や機器のほか公道との距離などに係る**ルールづくり**や**規制緩和**をどう効果的に進めていくべきか。